opusdei.org

黙想の祈り:年間第3 主日(B年)

黙想のテーマ:「ニネベの住 民の回心」「イエス、使徒た ちの人生を変える」「はじめ ての回心を思い出す」

ニネベの人々の回心

イエス、使徒たちの人生を変える

はじめての回心を思い出す

今日の第一朗読はヨナが主から受け た使命について語ります。「さあ、 すべての回心は人間の自由な応答を 必要とします。そういった意のにます。そういできるのいできるのできることがです。回心といのです。回心とは神けれることを受けるとなることを受けるとなることを改めることですー、生き方を変った。「回心ですー、生き方を変った。」

えることです。世の中の模範に従う のではなく、神であるイエスの模範 に従い、イエスがなさったように、 イエスが教えてくださったように行 うのです。観点や姿勢を抜本的に変 えるのです。罪、とりわけ空気のよ うな存在である世俗の罪は、他者よ りも、さらには神よりも、自分自身 を肯定するという考え方を生じさせ ます。」「」。ニネベの人々はこの世 俗の罪を捨て、神との和解を求めて 断食し償いを行いました。そしてそ れは何よりも彼ら自身を幸せに導く ものでした。

ニネベの住民への主のメッセージ は、彼らが世俗的なものに対して距離を取り、神から来るものだけが彼らを幸せにできることを認識するよう、彼らを招きました。この呼で言葉 けを受け入れるためには、神の言葉を信頼し、神の癒しに身を任せ、神を信頼し、神の癒しに身を任せ、神と共に歩むことに対し自分自身を開くことが要求されます。このように

して、神は私たちの内に良い望みを 育み、私たちが神に従って歩むため の力を内から強めてくれます。聖ホ セマリアは言います:「神の子に とっては、毎日が自らを新たにする 機会である。すなわち、恩恵に支え られて道を踏破し、愛なる御方のも とへ必ず到着できるとの確信を持っ て、日々改心するのである。だか ら、始めては、また始めるという努 力がある限り、あなたは良い歩みを 続けていることになる。勝利を得よ うという心意気を持ち、神の助けを 得て戦うなら、必ず打ち勝つだろ う。克服できない困難などないので ある | 1210

今日の福音書もまたイエスの新しい 命への招きについて語ります。ヨハ ネが捕らえられたことを知った主は ガリラヤに向かい、福音を宣べ伝え ます:「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」。続いて聖マルコは二人の弟子。たちの召し出しについばびほととう。「イエスは、ガリラヤ湖のほととうれたとき、シの兄弟アンデレが湖で網をはといるのを御覧になった。彼らは、『わたしにしよった。イエスは、『わたしにしまった。人間をとる漁師によっ』と言われた」(マルコ1・14-17)。

キリストはガリラヤの住民と使徒たちを照らす「大いなる光」(イ召の記)です。弟子たちの回心と召あいるまり、カーの基はキリスト自身ですたのです。のはしの妻はもの人生を変えからとといった。「しばしば、キリストとと自がでいば、自分自心とないであるため、人生を変えること、名のかるため、悪の道を捨てること、

罪の道を捨てることができないことがあります。(…)主に対する忠実は単なる個人的な努力ではありません。忠実は、イエスの福音を受け入れる、信頼した開かれた心と想いによって、表されるものです」③。

最初の弟子たちはイエスに彼らの人 生を照らす大いなる光を見ました。 イエスとの出会いは彼らの人生計画 を完全に書き換えました。それゆえ 「二人はすぐに網を捨てて従ったし (マルコ1・18)。それまで漁は彼ら の人生の中心でした。しかしイエス との出会いの後、それは二の次にな りました。もちろん、主はすべての 人に対してこのような形で網を捨て るように求めることはありません。 しかしすべての召し出しは「仕事に 使命感を与え、私たちの存在を尊い ものにし、それに価値を与えます。 イエスは権威を持って魂の中に、あ なたの魂、私の魂の中に入って来ま す、それが神の呼びかけです | [4]。

神に心を開き、神の回心への呼びかけに応えることは、聖性への道の最初の一歩です。使徒たちはイエスに従うことにしました。しかし彼らはまだ多くの点において自分自身を改める必要がありました。そういった意味で聖ホセマリアは言います:

「改心は一瞬の問題ですが、聖化は 全生涯にわたる事業です。神が心長 内に蒔いてくださった愛の種が成望し、行いの実を結ぶことを主は望ん でおられます。私たちもいと願出発しいます。な話がたいとのです。 おきずいとがある生活に新の改れます。 がある毎に、あの最初のです」 悟が不可欠となるのです」 「」。

イエスは私たちに完璧な生活を送る ことを求めません。そうではなく私 たちが主から離れないことを望みま

す。これが私たちの人生の実りの根 源です。それゆえ大切なのは、絶対 に転ばないことではなく、各瞬間、 新たにスタートしたいと望むこと、 そして常に主とのつながりを求める ことです。自身の弱さを知ることは 自身をより良く知ることにつながり ます。そしてそれは、どのように神 が私たちのうちにおいて働くのかを 知ることにつながります。神はいつ も私たちのもとに来てくれます。特 に主は、私たちが自分の欠点を発見 し、それを受け入れた時、特別な優 しさを持って私たちのもとに近づい てきます。私たちの主との最初の出 会い、主が私たちに最初に声をかけ た時のことを思い出すことは、私た ちが特に大きな過ちを犯し、平和を 失ってしまったとき、助けとなりま す。その時はイエスが私たちの心に 入ってくることを妨げないことが大 切です。

「あなた自身のガリラヤを思い出 し、それに向かって歩いてくださ い。それは個人的にイエスを知った 場所であり、イエスが遠い過去から あなたのところへ登場されるため に、立ち止まられた場所でもあるの です。それは生きている人としてで あり、遠くにいる神としてではな く、あなたのそばに寄り添い、誰よ りもあなたを理解し、愛しておられ る神としておられるのです | 📶。三 度イエスを否定し涙を流した時、も しかしたらペトロは自分が主と共に いた時のことを思い出したかもしれ ません。主が彼を呼ばれた日、主と の親密な会話、奇跡に立ち会った喜 び…もしかしたらそれらの記憶がペ トロを絶望から守ったかもしれませ ん。それらの出来事を通してペトロ は神の憐れみを経験したからです。 私たちも自分が神の憐れみを何度も 必要としていることを知っていま す。困難がある時、聖母は私たちが イエスの優しい眼差しを発見できる

よう助けてくれることでしょう。そして私たちは神が常に私たちを呼んでいることを思い出すことができます。

- [1] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2021年1月24日。
- [2] 聖ホセマリア『鍛』344。
- [3] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2020年1月26日。
- [4] 聖ホセマリア、書簡3、9番。
- [5] 聖ホセマリア『知識の香』58 番。
- [6] フランシスコ、復活徹夜祭ミサ 説教、2023年4月8日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-nenkann-3shujitu-b/(2025/12/16)